たまシネマ通信　2018年8月25日発行

# TAMA CINEMA 通信

TAMA CINEMA FORUM
TAMA映画フォーラム実行委員会　〒206－0025 多摩市永山1－5　ベルブ永山（永山公民館内）
代表：042－337－6661　直通：080－5450－7204　http://www.tamaeiga.org/

## 特別上映会 8/25 土 ベルブホール（ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約 2 分）

### 映画 KUBO/クボ 二本の弦の秘密 上映と dwarf こま撮りイベント

＊『KUBO / クボ 二本の弦の秘密』は吹替版を上映

© 2016 TWO STRINGS, LLC. All Rights Reserved.

### 上映スケジュール

| | |
|---|---|
| 10:30 – 12:13 | KUBO / クボ 二本の弦の秘密 |
| 12:20 – 13:05 | イベント① |
| 13:45 – 15:28 | KUBO / クボ 二本の弦の秘密 |
| 16:00 – 17:43 | KUBO / クボ 二本の弦の秘密 |
| 17:50 – 18:35 | イベント② |
| 19:00 – 20:43 | KUBO/ クボ 二本の弦の秘密 |

＊全席自由・各回入替制。開場は 15 分前です。
＊上映時間は変更になる場合があります。
＊イベントはチケット（半券含む）提示で入場可。

### チケット料金

| | | |
|---|---|---|
| 前売： | 大人（中学生以上） | 1,000 円 |
| | こども（4 歳～小学生） | 800 円 |
| 当日： | 大人（中学生以上） | 1,200 円 |
| | こども（4 歳～小学生） | 1,000 円 |

TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者 1 名は、当日 1,000 円

### イベント　合田経郎監督作品上映 ＋こま撮り実演とトーク（トーク：合田経郎／実演：峰岸裕和）

**合田経郎 氏（演出／キャラクターデザイン）**
1967 年、東京生まれ。CM ディレクターとして演出家のキャリアをスタート。NHK キャラクター「どーもくん」シリーズが人気を博し、活躍のフィールドをアニメーション映像へと広げる。2003 年にドワーフを立ち上げ、アニメーション作家へと転身。絵本、イラストレーションをはじめ、自身でも 2D アニメーションを制作するなど創作活動は多岐に渡る。

**峰岸裕和 氏（ストップモーション・アニメーター）**
1955 年、栃木県生まれ。東京デザイナー学院アニメーション科卒業後、岡本忠成氏が主宰するエコー社に『南無一病息災』（73）の助手として入り、以後アニメーターとして作品に携わるとともに日本を代表する人形アニメーション作家である川本喜八郎氏に師事し、制作に携わる。98 年から「どーもくん」シリーズのアニメーション担当。「こまねこ」シリーズなど、合田 氏とコンビを組んだ作品多数。

### 企画者からのメッセージ

　NHK キャラクター「どーもくん」を生み出した合田経郎監督とは旧知の仲です。今回の企画打ち合わせで約 20 年ぶりに再会し、昔話に話が弾みました。当時彼は駆け出しの CM 監督で、その個性的なボーッとした風貌は……今も変わっていません。

　さて “ストップモーションアニメーション”（合田監督の言葉で “こま撮り”）の監督とは何をする人なのか？映像クリエイターの中ではとても地味な仕事かな。だって 1 秒 ＝ 24 コマとして、例えば 30 分の作品でも単純計算で 24 コマ × 60 秒 × 30 分 ＝ 43,200 コマ。何日もスタジオにこもり、1 コマ 1 コマキャラクターを動かし、撮影してはまた動かし、それが 43,200 回 !?　なんと気が遠くなることか……。でもこま撮り監督はとても楽しい仕事なんです。だってティム・バートンはジャック・スケリントンに、トラヴィス・ナイトは KUBO に、合田経郎はこまねこやどーもくんに。そう、動くはずがないキャラクターたちに魂を吹き込んでいるんだから……。

　なので、今期最後の特別上映会は、ストップモーションアニメーション特集です。アメリカ作品で最先端の技術の粋、映画『KUBO / クボ 二本の弦の秘密』と、合田氏峰岸氏によるこま撮りイベントをご覧ください。スクリーンの中で大活躍のキャラクターたちから映像の可能性を感じとっていただけたら幸いです。（伊藤達哉）

# 実行委員のおススメ映画コーナー

cinema review

## 爆裂都市 BURST CITY （石井聰亙監督監督 /1982 年）

ZEPP ダイバーシティ東京の『爆裂都市 BURST CITY』最響上映に行ってきました。既に観たことはあるのですが、映画ははっきり言ってつまらないです。ストーリーは無いし、みんなバカだし。陣内孝則はオレが主人公だと言い張って、いつの間にか主人公ということになってるけど、川口市みたいなところに（川口市民の皆さまごめんなさい）キチガイ兄弟が来て、原発を巡る再開発で暗躍する暴力団と貧困層との抗争に巻き込まれるというストーリーで、陣内がいなくてもストーリーに影響ありません。

でも音楽は最高です。ルースターズ、ロッカーズ、スターリン（サントラ未収録）、サンハウス（サントラ未収録）、ルースターズとロッカーズが合体したバトル・ロッカーズ（名前はダサい）の音楽をコンサート会場の ZEPP ダイバーシティで監督自らが調整した音で聴くという至福。さらにまだ元気だった頃のルースターズの大江慎也の格好いいこと！

ということで、8 月 17 日に爆裂都市オリジナルサウンドトラックの UHQCD が発売されたので、ぜひ聴いてみてください。（石井秀明）

## 泳ぎすぎた夜 （五十嵐耕平監督、ダミアン・マニヴェル監督 / 2018 年）

IMAX、やっぱり音がいいねぇ！ 応援上映、こりゃ楽しい〜！ SF やアクション大作、血沸き肉躍る〜！……と思う一方で、たまには静かな映画も観たくなる。静かだからこそ伝わる音がある。

『泳ぎすぎた夜』は青森の雪深い町で、魚市場に行くため日が昇る前に家を出て行ってしまうお父さんに、急に 1 枚の絵を届けたくなってしまって通学路からはみ出して冒険をする 6 歳の男の子のお話。一人の冒険なので、ほぼ台詞はなし。でもだからこそ、男の子と同じ体験をできるのです。雪を踏む音。屋根などに溜まった雪が落ちてくる音。電車の音。犬の足音、鳴き声。その時の気持ちによって楽しく聞こえたり、寂しくなったり。私達が生活している時はそう都合よく BGM なんか鳴らない代わりに、自然な音が十分感情とシンクロするのだなと改めて気づかされます。青森でスカウトした男の子の演技も作為が全くなくて so cute!　癒されたい時にぜひ。（折笠　恵）

## リズと青い鳥 （山田尚監督 / 2018 年）

恥ずかしいですが、今年で唯一、3 回も観た映画です。アニヲタだと思われても勧めたい一作です。テレビアニメ「響け！ユーフォニアム」のスピンオフ作品ですが、原作を見なくても楽しめる作品だと思います。

北宇治高校吹奏楽部に所属している二人の三年生の少女、オーボエを担当しているみぞれとフルートを担当している希美。高校最後のコンクールの自由曲「リズと青い鳥」でオーボエとフルートが掛け合うソロパートを担当することになった二人の間の葛藤にまつわる物語。アニメ映画なのに、思春期特有の友情と才能への執着の描写がとても繊細でリアルです。

それに音楽がとにかく良いです！ 映画の軸となった吹奏楽部の演奏だけでなく、サントラ全体が良いです！

ということで、9/15 〜 9/21 川崎チネチッタ独自の音響システム【LIVE ZOUND】二周年を記念して、『リズと青い鳥』の期間限定上映が決定いたしました！ サントラも絶賛発売中でぜひ一度観て／聞いてください！（陳 舟）

ここでは実行委員のおススメ作品を紹介いたします。ネタバレもありですのでご注意を。

## 悲しみに、こんにちは

（カルラ・シモン監督 / 2017 年）

文学的なタイトルと、可愛いビジュアルに惹かれて何気なく観に行ったこの作品に、すっかり心を掴まれた。バルセロナ出身のカルラ・シモン監督は、自らの幼少期の出来事をベースに、少女のひと夏を瑞々しく繊細に描いた。本作は彼女の長編デビュー作というから驚きだ。

主人公のフリダは、両親を失い、状況を把握できないまま、叔父と叔母と、彼らの実の娘であるいとこと共に暮らすことになる。都会を離れての新しい暮らしに慣れないフリダと、彼女をどう受け入れたら良いのかと戸惑いを隠せない大人たち。フリダの瞳は不安に揺れる。

やがてフリダに、自らが抱えていた感情と向き合う瞬間が訪れる。張り詰めていた感情がふっ、とほどけ、未来を感じさせるラストが素晴らしい。

フリダの両親は 1993 年当時のスペインで社会問題となっていたエイズによって亡くなっている。幼い子どもたちも、社会と無関係ではいられない。現代の親子を描いた良作『フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法』と合わせて観たい 1 本だ。（永瀬智美）

## ジュラシック・ワールド 炎の王国

（J・A・バヨナ監督 / 2018 年）

圧巻。この一言に尽きると思う。

テーマパーク＜ジュラシック・ワールド＞を有する島で、火山の大噴火の予兆が捉えられていた。迫り来る危機的状況の中、人類は噴火すると知りつつも恐竜たちの生死を自然に委ねるか、自らの命を懸け救い出すかの究極の選択を迫られる。そんななか、恐竜行動学のエキスパート、オーウェンはテーマパークの運営責任者だったクレアと共に、行動を起こす事を決意。島へ向かったその矢先に火山は大噴火を起こし…。

自然 VS 人工、自然 VS 生物、前作から続くこの構図に対する制作陣の答えが、今作にはより濃く現れていたように思う。紛争や原子力、天災の問題を抱える現代、特に最近酷暑や豪雨等の異常気象に見舞われている今の日本には響く部分が多いのではないだろうか。「恐竜」を通して、「人間」の脆さや危うさ、そして強さを見せてくれる作品だ。

しかし、何をおいてもまず第一に、この映画はエンターテインメントとして最上級に楽しめた。遊園地のアトラクションの様な高揚感をもたらしてくれる、まさに映画館で見るべき映画である !!（豊田 果歩）

## 第 19 回 TAMA NEW WAVE 絶賛審査中です！

TAMA NEW WAVE は毎年秋に開催される映画祭 TAMA CINEMA FORUM 内のプログラムとして 2000 年よりスタートした " 日本映画界に新風を送り込む新しい才能の発見 " を目的とする中・長編コンペティションです。第 19 回目の今回は今までで最高の 173 本の応募がありました。

現在、11 月下旬に開催の TAMA NEW WAVE コンペティションに向けて選考を行っております。お楽しみに！

昨年の TAMA NEW WAVE 授賞式

Ⓒ 2017 TAMA CINEMA FORUM

上映会レポート

## 7/21㈯ ベルブホール PATERSON パターソン

7月21日の特別上映会ではジム・ジャームッシュ監督の『パターソン』を上映し、柴田元幸さんとマーサ・ナカムラさんによるゲストトークを行いました。

劇中でパターソンが綴る詩を提供した詩人、ロン・パジェットをジャームッシュ監督に紹介したのは小説家のポール・オースター。そのポール・オースターの翻訳を手がける柴田さん、劇中の主人公のように働きながら詩を書くマーサさんのトークというご縁を感じるものになりました。

生活の実感から始まる詩、仕事をしながら詩を書くこと、表現者と並走するパートナー、今は亡き詩人との共鳴、詩と小説の違いについて、お二人の視点で語られる言葉に引き込まれていきました。

「詩の翻訳は小説よりもスピリットが必要。スピリットにより意識的になる」という柴田さんの言葉の重み。「詩は説明されないところに想像の余地がある。私はノートの罫線を歩かないようにしている」というマーサさんののびやかさ。映画にちなんで、マーサさんからは自身の詩を書きためた秘密のノートを披露する一コマも。そして、柴田さんがチャールズ・レズニコフの詩を朗読し、マーサさんが尾形亀之助の「部屋の中」と自作「筑波山口のひとり相撲」を朗読することで、会場がひそやかな詩の世界に包まれていきました。

劇中終盤の「The Line」のように、自分の大切なノートがなくなっても、可能性に溢れた白紙を駆け巡る思いを大切にしていきたいと感じることができました。（内田崇正）

## お知らせコーナー

### 第28回映画祭TAMA CINEMA FORUM　たまシネマ隊募集！

TAMA映画フォーラム実行委員会は、2018年11月17日（土）～11月25日（日）に開催予定の第28回映画祭TAMA CINEMA FORUMをサポートするたまシネマ隊を募集します。

説明会は9月17日（祝・月）、9月30日（日）を予定しています。応募方法などの詳細は後日ホームページで発表いたします。

### 支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。

ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願いいたします。

［支援金寄付　個人会員］一口1000円から　（ご不明な点はお問い合わせください）

郵便振替番号　00160－5－541123　加入者名　TAMA映画フォーラム実行委員会

特典①：映画祭チラシ送付
特典②：映画祭パンフレット贈呈
特典③：特別上映会割引（当日チケットを支援会員特別価格に。上映会は2～8月の間に4～5回開催予定）

その他の特典もご用意する予定です。

**※支援会員のお申込みがホームページからもできるようになりました！ ぜひご活用ください。**

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ　**www.tamaeiga.org**

**@tamaeiga**（最新情報をフォロー）　**www.facebook.com/tamaeiga**（facebookページに「いいね!」で参加）

たまシネマ通信　August 2018　Issued by *TAMA CINEMA FORUM*
Editor in Chief O. *Yoshino*　Editorial Design *F. Iizuka*　Contributing Editors *TAMA CINEMA FORUM Staff*
禁無断転載